

評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所名	サンキ・ウエルビィ グループホーム周南		
所在地	周南市遠石一丁目10番57号		
電話番号	0 8 3 4 - 2 7 - 6 7 8 5	事業所番号	3591500032
法人名	サンキ・ウエルビィ株式会社		

訪問調査日	平成 22 年 3 月 8 日	評価確定日	平成 22 年 6 月 17 日
評価機関の 名称及び所在地	特定非営利活動法人やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク 山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		

【情報提供票より】

(1) 組織概要

開設年月日	平成 19 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員計	18 人
職員数	26 人	常勤 10 人 非常勤 16 人	(常勤換算 11.2 人)

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨 造り		
	2 階建ての	1 ～ 2 階部分	

(3) 利用料等 (介護保険自己負担分を除く)

家 賃	月額 50,000～52,000 円	敷 金	無	円
保証金	有 150,000～156,000 円	償却の有無	無	
食 費	朝食	300 円	昼食	600 円
	夕食	600 円	おやつ	円
その他の費用	月額	20,000 円		
	内訳	光熱水費		

(4) 利用者の概要 (2 月 1 日現在)

利用者数	18 名	男性 6 名	女性 12 名
	要介護 1	1	要介護 4 4
	要介護 2	6	要介護 5 3
	要介護 3	4	要支援 2
年齢	平均 82.3 歳	最低 66 歳	最高 91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療 機 関 名	医科 千治松内科 徳山中央病院 歯科
---------------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

(優れている点) 市街地でありながら、周辺地域には地元の住民が多く、地主さんの呼びかけもあり、地域の協力や関係を保ちながら運営しておられ、音楽療法等ボランティアの方が来られる時は地元住民や家族も参加され、利用者と一緒に楽しんだり、餅つきやソーメン流し等の行事も一緒に行なっておられます。各種マニュアルは法人本部で整備され、職員の提言により事業所の実情に合わせたマニュアルの見直しや付け加え等が行なわれ、マニュアルを参考にした計画的な研修や話し合いを行っておられます。
(特徴的な取組等) 2ユニットのホームで、一つのユニットは男性5人女性4人で構成され、皆で支えあい助け合いながら和やかに暮らしておられます。事業所の中でボランティアの方の居場所が確保され、多くのボランティアの方が夫々に役割を持ちながら意欲的に関わっておられます。職員は事業所内で夫々の役割を持ち、運営やケアに係るアイデア等を提言して実行されるなど、職員のやる気や仕事に対する意欲の向上に努めておられます。子供110番対応施設として子供や若いお母さんとの関わりも深めておられます。

【重点項目への取組状況】

(前回の評価結果に対するその後の取組状況) 前回の評価結果を参考に、職員の外部研修や時間外の会議研修は、業務の一環とされています。第三者委員も選任され、家族会や運営推進会議で説明され、重要事項説明書への記載も検討されています。
(今回の自己評価の取組状況) 職員会議や休憩時間などを活用して、職員全体が目を通し、全員で書き込みながら思いを集約し、サブリーダーやリーダー、管理者が中心となってまとめておられます。評価項目や評価結果は職員全員で共通理解をされています。
(運営推進会議の取組状況) 市役所担当課、地域包括支援センター、民生委員、他のグループホームの代表者、介護相談員、ボランティア代表、家族代表、管理者が集い、2ヶ月に1回定例的に開催され、運営や利用者の暮らしぶりへの提言もあり日常業務に活かしておられます。事業所から書記として職員が参加する事により、事業所内の活性化に繋げておられます。
(家族との連携状況) 家族会が3ヶ月に1回開催され、ホーム便りも毎月発行、月々の利用料請求時は手紙による個別の近況報告をされ、家族との連携に努めておられます。利用者が不穏になられた時は電話に対応してもらい、利用者の心身の安定に協力してもらっています。緊急時や金銭の管理状況も随時報告され、面会時には生活記録を開示しながら、報告をされています。事業所独自の家族アンケート調査も行なっておられます。
(地域との連携状況) 自治会に加入し、自治会から広報や回覧が届けられます。餅つきや夏祭りなどの地域の行事に参加され、事前準備に参加される事もあります。事業所の行事やボランティアが来られる時は近所の方々も参加され、一緒に楽しんでおられます。「災害時の避難は難しいから自分達が事業所へ応援に行く」という提案もあります。近所のコンビニと連携し、買物や好きな弁当を買う楽しみもあります。

評価結果

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念の共有				
1 (1)	○ 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えているサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	地域密着型サービスとして「私達は家族と協働し地域に開かれたサービスを提供します」という、事業所独自の理念を作り上げている。		
2 (2)	○ 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	理念を事業所内に掲示すると共に、朝夕の申し送り時には職員全員で唱和し、実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい				
3 (7)	○ 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	自治会に加入し、自治会行事に参加しており、事業所で行なう行事やボランティア来所時は地域の人々も参加し、一緒に楽しんでいる。近くの神社の参拝や散歩時には時候の挨拶を交わし、地域の一員として暮らしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
4 (9)	○ 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価の意義について職員全員が共通理解し真摯に取り組んでおり、前年の評価結果を基に勤務の一環としての外部研修の提供や第三者委員の選任を検討し改善している。自己評価は全員で書き込みながら思いを集約し、サブリーダーやリーダー、管理者でまとめている。		
5 (10)	○ 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	運営会議は2ヶ月に1回開催され、様々な提言が寄せられ運営上の参考になっている。ユニットリーダーを書記に置くことで事業所内の活性に繋がっており、事業所にボランティアが来訪する時は、ボランティアの補助や利用者の支援に当たる委員もいる。		
6 (11)	○ 市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	市とは日頃から行き来をしており、出前講座の利用や相談助言を受けながら、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践する為の体制				
7 (16)	○ 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月1回ホーム便りを発行し、利用料請求時には手紙で一人ひとりの近況を個別に知らせている、金銭管理の状況や緊急時の連絡も適切におこなわれ、面会時は利用者毎の記録を提示しながら状況を報告している。		
8 (18)	○ 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	家族会が3ヶ月に1回開催され、家族との意見交換を行っている。意見や苦情の受付も行っており、苦情処理の手続きも明確に定められている。第三者委員を選任し家族会や関係者に周知している。事業所独自の家族アンケート調査を行い、満足度を把握すると共に、意見や要望を聞く機会としている。		
9 (20)	○ 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	管理者がフリーの立場にあり、緊急時は管理者が補填する場合もあるが、管理者を中心に職員で話し合い、勤務の調整を行なっている。行事等事前に調整できる時は話し合いにより人員の配置を行なっている。		
10 (21)	○ 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、変わる場合は利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	異動は最小限にし、ボランティアや行事は1階と2階合同で行い、日頃から双方の職員や利用者は顔なじみの関係であるよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援				
11 (22)	○ 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修は毎月1回マニュアル等を活用しながら計画的に行っており、外部研修は業務の一環として参加し、資格取得の側面的な援助もある。事業所内では夫々に役割を持ち役割意識をもって業務に従事してもらうと共に、介護や運営に係る提案を勧め、職員のやる気を育てている。		
12 (24)	○ 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	山口県宅老所・グループホーム連絡会に所属し勉強会や情報交換をしながら交流している。グループホームの運営推進会議にも相互で参加しあいサービスの質を向上させていく取り組みとしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取 組みを期待 したい項目）	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
13 (31)	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	利用前は家庭訪問や近所訪問で顔なじみの関係を作ると共に、利用者や家族の思いをしっかりと把握する事に努め、ホームの雰囲気や暮らしぶりを知ってもらう為の体験利用を3回程度行なっている。利用開始後も早く馴染めるよう細かい配慮をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
14 (32)	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	出来ることは性別を問わず、感謝の言葉かけをしながら日常の家事やレクリエーションに関わってもらう等、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、支えあう関係を築いている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
15 (38)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常の会話や利用者の何気ない言葉や態度から思いや意向を把握しており、困難な場合は本人本位に検討している。利用者の生活歴や職業歴、交友関係を思い出マップとして作成し、参考にしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
16 (41)	○チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している。	担当職員とケアマネージャーにより、モニタリングを月1回実施し、本人や家族の意向、気持ちを尊重しながら、医師やその他必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している。		
17 (42)	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行なうとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	計画は3ヶ月毎に見直し、状態に変化が生じた時はその都度状況に応じた計画を作成している。家族からの新たな希望があった時は介護計画に追加するなど、適宜見直しをしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
18 (44)	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	家族や本人の希望に応じて、馴染みの理髪店利用や受診援助、外泊や外出、レクリエーション行事等の楽しみ事を支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
19 (49)	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	今までどおりのかかりつけ医に続けて診てもらえるよう支援しており、かかりつけ医がいない場合は協力医を紹介し、適切な医療が受けられるよう支援している。		
20 (53)	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化や終末期の対応指針を作成し、家族や本人の希望に応じた対応が出来るよう配慮しており、今後の方向についてはその都度、かかりつけ医や家族、事業所と話し合いを行い、方針を決めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
21 (56)	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	プライバシーの保護や接遇についての研修を繰り返し行いながら、適切に対応するようにしている。記録等個人情報の取り扱いも配慮されている。		
22 (59)	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者一人ひとりのペースやその日の思いを尊重し、希望に応じた支援をしている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
23 (61)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	調理の下ごしらえや配膳、片づけ、おやつ作りを職員と一緒に、職員と共に食事をしながら、楽しむことができるよう支援している。		
24 (64)	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しむように支援している。	入浴は利用者一人ひとりの希望やタイミングに応じて勧められており、必要に応じ夜間に対応する事もある。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取 組みを期待 したい項目）	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
25 (66)	○ 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	多くのボランティアや外部の指導者により、音楽療法、習字教室、リズム体操、歌やダンス等が提供され楽しみごととなっている。畑仕事や掃除、調理の下ごしらえや配膳等、生活の場においても一人ひとりの力量に合わせ活躍の場面をつくっている。	
26 (68)	○ 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	事業所の玄関前のテラスでくつろいだり、移動パン屋の利用、近くの神社や公園の散歩、地域内にあるコンビニエンスストアでの買物、外食やドライブ等戸外に出かけられるよう支援している。	
(4) 安心と安全を支える支援			
27 (74)	○ 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	マニュアルを作成し、繰り返して行なわれる研修により職員は深く理解しており、拘束をしないケアに取り組んでいる。	
28 (75)	○ 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	鍵をかけることの弊害については、全ての職員で共通理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	
29 (78)	○ 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	各種マニュアルを整備しマニュアルに添った研修を行うと共に、ヒヤリはっとや事故の事例があった場合は検討会議を開き事故防止に努めている。	
30 (79)	○ 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急時マニュアルを作成、傷病者の管理や搬送方法、応急手当、心肺蘇生法等、想定される緊急対応について、研修訓練を行なっている。	
31 (81)	○ 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	消防署の指導を得ながら、年2回避難訓練を実施している。過去の水害や災害について近隣住民から情報収集を行ないながら、想定される自然災害にも備え、緊急時の近隣住民の協力についても依頼をしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取 組みを期待 したい項目）	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
32 (84)	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。		
33 (86)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力量に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。		
34 (87)	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。		
35 (88)	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
36 (91)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。		
37 (93)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。		

自己評価書

【ホームの概要】

事業所名	サンキ・ウエルビィ グループホーム周南
所在地	周南市遠石一丁目10-57
電話番号	0834-27-6785
開設年月日	平成 19 年 4 月 1 日

【実施ユニットの概要】（ 2 月 1 日現在）

ユニットの名称	1F			
ユニットの定員	9 名			
ユニットの 利用者数	9 名	男性 名	女性 名	
	要介護 1		要介護 4	
	要介護 2		要介護 5	
	要介護 3		要支援 2	
年齢構成	平均 歳	最低 歳	最高 歳	

【自己評価の実施体制】

実施方法	運営者、管理者、職員で話し合い取り組みました。
評価確定日	平成 22 年 2 月 8 日

【サービスの特徴】

近隣に遠石八幡宮や緑地公園があり、天気の良い日には参拝やドライブに出かけ
ています。
明るく楽しく元気にをモットーに、利用者の方に笑顔で過して頂ける様、職員一同
支援させていただいております。また、街の中心部に位置しており、御家族の面会
も多く、利用者も安心して生活されています。
自然とのふれあいとして、敷地内の畑で野菜や花の栽培を行ったり、歌やリズム体
操などの音楽療法もおこなっています。月に2度行われる習字教室を楽しみにさ
れている方もあります。
地域のボランティアの方も気軽に立ち寄っていただき、話し相手や歌を披露してい
ただいてます。
自己選択、決定の機会として、昼食の弁当を職員と一緒にコンビニへ買い物に行
く日やメニューをみて弁当を注文する日なども行って喜ばれております。

自 己 評 価 票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念の共有				
1 (1)	○ 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	住み慣れた地域で安心した暮らしが続けられるよう、地域密着型サービスの役割を職員全員で認識し、理念をつくっている。	○	毎日、朝夕の申し送りの際、職員全員で唱和している。
2 (2)	○ 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	毎日、申し送り時に職員一同による唱和を行い、実践に向けて取り組んでいる。	○	毎日、朝夕の申し送りの際、職員全員で唱和している。
3	○ 運営理念の明示 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。	月1回のミーティングや随時個別面談を行い理念に沿った援助が行えるよう職員の質の向上に心掛けている。		
4	○ 運営者や管理者の取り組み 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。	定期的に職員会議を開き、意見交換を行い、ケアの統一やサービスの質の向上に向けた取り組みを行っている。		
5	○ 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	事業所内に理念を掲示し、折に触れ伝えている。地域の集まりにも出来るだけ参加し理解してもらえるように努めている。		
2. 地域との支えあい				
6	○ 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ったりしてもらえるような日常的な付き合いができるよう努めている。	散歩や外出の際、挨拶を行い気軽に立ち寄ってもらえるように声掛けを行っている。行事等には、パンフレットを配っている。		
7 (3)	○ 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域の夏祭り、運動会などに利用者と共に参加し交流に努め、保育園、小学校、中学校との交流が来ている。	○	出来るだけ地域の行事に参加し、ふれあうと共に私達のグループホームを知って頂ける様にしていきたい。
8	○ 事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	ボランティアの受け入れを随時行い地域の方のふれあいの場となっている。 地域見守り隊に参加し、「子供100当番の家」としての登録を行い車にステッカーを貼っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。		
10 (5)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	○	参加者からの意見を大事にして、日々のケアに活かしていきたい。
11 (6)	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。		
12	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。		
13	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。		
4. 理念を実践するための体制			
14	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。		
15	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。		
16 (7)	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	○	面会時間を利用し、職員の顔写真と氏名も公表していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	○ <u>情報開示要求への対応</u> 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。	家族等の希望により面会簿、支援経過記録を提示し、情報開示に応じている。		
18 (8)	○ <u>運営に関する家族等意見の反映</u> 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	家族会、運営推進会議に参加していただき、意見をいただいている。相談、苦情については契約の際、説明を行っている。		
19	○ <u>運営に関する職員意見の反映</u> 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月、職員会議やリーダーミーティング、フロアミーティングを開き意見交換を行っている。		
20 (9)	○ <u>柔軟な対応に向けた勤務調整</u> 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者の状態や、グループホームの行事に合わせて、柔軟なシフトを組んでいる。	○	行事を行う際、事故のないように、ボランティアを含めた体制をとっていきたい。
21 (10)	○ <u>職員の異動等による影響への配慮</u> 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	出来るだけ利用者が、不安にならないように異動は最小限にしている。普段から1階、2階一緒にの行事を行い、職員も同じように声かけを行っている。		
5. 人材の育成と支援				
22 (11)	○ <u>職員を育てる取り組み</u> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	グループホーム内で研修を行ったり、地域の研修会へ参加を呼びかけている。 具体的な介助方法についてのデモンストレーションも随時行っている。		
23	○ <u>職員配置への取り組み</u> 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。	20代から60代の職員で意見も異なるが、利用者のニーズに答えるようにしている。		
24 (12)	○ <u>同業者との交流を通じた向上</u> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	グループホームの勉強会や、交流会等には出来るだけ参加してコミュニケーションを図っている。	○	お互いの良いところは吸収し、サービスを向上させていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	○ <u>職員のストレス軽減に向けた取り組み</u> 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	出来るだけ話し合いの場がもてるように努めている。又クリスマス会や新年会など、会食の場をつくっている。		
26	○ <u>向上心を持って働き続けるための取り組み</u> 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	職員に役割分担を決め、各自が責任をもって行えるようにしている。		
27	○ <u>職員の業務に対する適切な評価</u> 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。	それぞれの個人レベルに合わせながら、処遇面において対応している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
28	○ <u>初期に築く本人との信頼関係</u> 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	入居前にグループホームを見学してもらい、家族、本人より希望を聞くようにしている。		
29	○ <u>初期に築く家族との信頼関係</u> 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	入居の相談に来られた時、ホーム内を見て頂き、時間の許す限り相談に応じている。	○	家族の不安をゆっくりと聴けるような、体制作りをしていきたい。
30	○ <u>初期対応の見極めと支援</u> 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	早急な対応が必要な場合は、他の施設を紹介したり、出来る限り情報提供に応じるようにしている。		
31 (13)	○ <u>馴染みながらのサービス利用</u> 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	グループホームの環境に早く馴染んで頂ける様に、職員も気を配っており、家族等にも面会も多くして頂けるように説明している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
32 (14)	○ <u>本人と共に過ごし支えあう関係</u> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	出来る事は性別を問わず、掃除、片付けを一緒に行い、感謝の言葉を伝えるようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	○ <u>本人を共に支えあう家族との関係</u> 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	誕生会、行事等には、家族に声かけをして参加を呼びかけている。 不穏時には電話で連絡を取り、会話をしている。		
34	○ <u>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</u> これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	個々によって関係の深さが異なるが、電話、面会によってより良い関係が継続できるように努めている。	○	利用者が安心して過ごせるように、家族とのコミュニケーションを多くとっていきたい。
35	○ <u>馴染みの人や場との関係継続の支援</u> 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	支障のない限り、地域の行事に参加したり、思い出の場所に出かけたりしている。		
36	○ <u>利用者同士の関係の支援</u> 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	皆でレクリエーションを行う機会をつくり、利用者間で信頼関係作りをしている。	○	耳が遠く、コミュニケーションがとりにくい方の孤立が目立つため皆の輪の中に入れるよう職員がとりもっている。
37	○ <u>関係を断ち切らない取り組み</u> サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退去後も、家族がボランティアで誕生会などに参加して下さっている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
38 (15)	○ <u>思いや意向の把握</u> 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常の会話の中より本人の希望を察知し、援助内容に反映させるように努めている。	○	一人ひとりに関わる時間がもう少し多く取れるよう考えていきたい。
39	○ <u>これまでの暮らしの把握</u> 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	面会時に、今までの生活歴など少しでも引き出せるように、情報の把握に努めている。		
40	○ <u>暮らしの現状の把握</u> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	行事のない時は、それぞれの生活リズムを大切にし、ゆっくりと過ごしていただいている。	○	今後も個別ケアに取り組んでいきたいと考えている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41 (16)	○ チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。		
42 (17)	○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。		
43	○ 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44 (18)	○ 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	○ 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	○	民生委員、ボランティアなど、いつでも協力の得られる体制づくりをしていきたい。
46	○ 事業所の地域への開放 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している（認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等）。		
47	○ 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48	○ <u>地域包括支援センターとの協働</u> 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	2ヶ月ごとに開かれる運営推進会議のメンバーになってもらい、情報交換を行っている。		
49 (19)	○ <u>かかりつけ医の受診支援</u> 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	今までどおり、かかりつけ医を継続できるよう支援し、主治医がいない場合には、提携医を紹介するよう支援している。	○	一人ひとりの利用前の受診の経過、現在の受診の希望を把握して、今までのかかりつけ医や希望する医療機関での受診支援が出来るよう支援していく。
50	○ <u>認知症の専門医等の受診支援</u> 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	出来る範囲内で受診時に付き添い日常の様子など伝え、主治医と連携を図っている。	○	まだまだ認知症専門の先生が少ないので、グループホームでの様子もきちんと伝えていかなければならないと考える。
51	○ <u>看護職との協働</u> 利用者をよく知る看護職員（母体施設の看護師等）あるいは地域の看護職（かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等）と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	病状により生活上の注意点を看護師が中心となり支援を行っている。必要時、市の保健師より指導を受けている。	○	体調の変化に気付いた場合は、すぐに看護師に相談し、対応していく。
52	○ <u>早期退院に向けた医療機関との協働</u> 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時の情報提供や入院中の情報交換など行っている。	○	医師への連絡を行い、症状・入院期間で退院へ向けての準備、注意事項を職員へ伝えるなどの連携をとっている。
53 (20)	○ <u>重度化や終末期に向けた方針の共有</u> 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	家族等の希望を聞きながら、不安のないように説明を行っている。	○	主治医に症状を聞き、家族を交えて話す機会を持っている。症状説明やカンファレンスを行い、団塊に応じた対応を行っている。
54	○ <u>重度化や終末期に向けたチームでの支援</u> 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	今後の方針として話し合いの機会を持っている。家族とは他の医療機関や介護保健施設などの情報提供なども行っている。	○	症状説明が家族へされたら、その情報をもとに職員への情報提供、介護ケアの統一の為、カンファレンスをおこなっている。
55	○ <u>住み替え時の協働によるダメージの防止</u> 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	出来るだけ本人の持ち物を活用していただくよう家族に説明している。転院などの場合には、面会などを行い精神面での安定に配慮してる。	○	入居希望時にリロケーションダメージについて十分な説明を行っていききたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
56 (21)	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	研修の場を設け、プライバシーの保護と確保の徹底に取り組んでいる。 また、接遇の研修も定期的に行っている。	
57	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	本人の思いに出来るだけ寄り添い、希望に添うよう心掛けている。	
58	○“できる力”を大切にされた家事への支援 家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。	一緒に家事(餃子作り・洗濯など)を行い、その方の残存能力を大切にしている。	
59 (22)	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している。	行事ごとなど出来るだけ参加していただきたいが、静かな環境を好む方には、個室で過ごしていただいている。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
60	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	家族の協力を得て、かかりつけの美容院に行ったり、訪問理美容を利用している。衣類の管理は家族の協力を得て衣替えなど季節にあった衣類を用意している。	
61 (23)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	一緒に料理の下ごしらえを行ったり、片付けなどを職員と行っている。	
62	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。	ビールを飲む事はあるが、タバコはない。おやつや外食など利用者の好みを考えて提供している。	○ 誕生日等にはできるだけ本人の嗜好を考えていきたい。
63	○気持ちのよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	利用者の排泄パターンを記録し本人の負担の少ない方法をカンファレンス等で検討し、支援するよう心がけている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
64 (24)	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しむように支援している。	一人ひとりゆっくり入っていただけるよう、個別入浴としている。		
65	○安眠休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。	本人が安心して就寝できるよう、室温調節や明かりの調節など本人と相談しながら対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
66 (25)	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	家事仕事やレクリエーションなど楽しみの場面を見つけるよう支援している。その都度感謝の言葉を伝えている。	○	出来ること、個別の役割を多く増やしていきたい。
67	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	利用者が好みのものを買えるよう、職員と共に買い物に出かけている。		
68 (26)	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天気の良い日には近くの境内まで散歩したり、ドライブなどに出かけている。	○	外出の機会を出来るだけ多くとりたい。
69	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	思い出の場所に、職員と共にドライブに出かけている。		
70	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人からの希望があれば随時、対応している。		
71	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	自室を利用して個別に話ができるよう配慮している。また、ソファなどを利用してロビー内で落ち着いた空間作りを心掛けている。		
72	○家族の付き添いへの支援 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。	できるだけゆっくり過ごしてもらえるように支援しているが、現在の所、宿泊希望者はいない。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
73	○家族が参加しやすい行事の実践 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。	夏祭りや誕生会など家族の参加を呼びかけている。	○	出来るだけ家族にも参加していただける行事を行っていきたい。
(4) 安心と安全を支える支援				
74 (27)	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	夜間は防犯上、施錠しているが、日中は常時開錠し自由に出入りが出来るかたちにしている。		
75 (28)	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	居室については、外からは施錠できない作りとなっている。利用者によっては、ご自身で居室内から施錠される場合がある。		
76	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	朝、夕の申し送り通じて利用者の様子を把握し、昼夜安全確保している。		
77	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	日中、はさみを使用してもらうこともあるが、夜間は職員が保管している。		
78 (29)	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	ヒヤリ・ハット検討会を開き、再発防止に努めている。	○	研修を継続し、再発防止に向けて意識改革としてヒヤリ・ハット検討会を今後も開いていく。
79 (30)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	消防署の研修に参加をして緊急対応ができるようにしている。		
80	○再発防止への取り組み 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。	ヒヤリ・ハット検討会を行い、全職員が報告書に目を通すようにしている。	○	自己責任において再発防止に取り組むたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
81 (31)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	地域の民生委員の方に協力をお願いしている。		
82	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	面会時などを利用して利用者様の現状を伝え、起こり得るリスクについて話し合いを持つようにしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
83	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	体調変化のある人は、看護師へ報告するようにしている。毎日バイタルチェックを行い、日頃の様子観察により早期対応に努めている。	○	看護師を中心に早期受診に努めていく。
84 (32)	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	支援経過記録に個別の服薬説明書を添付し、服薬内容の把握がしやすくなっている。状態変化などについても看護師から主治医、薬剤師への連絡も行えている。	○	服薬時に本人に手渡し、きちんと服用できているか最後まで確認する。
85	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	毎日、体操を行っている。午前午後に水分補給の時間を作り、入浴後にも水分を取っていただける様にしている。	○	繊維質の多い食材を食事やおやつメニューに取り入れたり、散歩、家事仕事等で身体を動かし、自然排便ができる様取り組んでいく。
86 (33)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	毎食後、状態に応じて、声かけ、見守り、一部介助で口腔ケアを行っている。	○	毎食後のハミガキ、入れ歯の管理、手入れを確実にできるように支援していく。必要なら歯科往診を依頼する。
87 (34)	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	1日の摂取カロリーを1500キロカロリーとして、個人の摂取量を毎食後記入している。		
88 (35)	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	職員会議で注意を促し、入り口には消毒液を置き、マスク、手洗い等に気をつけている。毎日床掃除、ドアノブを次亜塩素酸を使って行っている。換気は1日に2～3回行って、加湿器も使用している。	○	予防接種の徹底を図っている。新型インフルエンザの接種については医師との相談にて接種している。
89	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	まな板、ふきんなど消毒を毎日行っている。食品は使いきるような量を購入している。	○	冷蔵庫の整理日を決める等、残ってしまった食材が古くならないよう、無駄なく使用できる工夫をしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
90 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関入り口にはスロープがあり、階段には手すりが取り付けられている。季節の花などを置き、やわらかい雰囲気作りを心掛けている。		
91 (36) ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	季節の花や飾り付けを行い、四季を感じとって頂ける様配慮している。換気を行い臭いがこもらないように注意している。		
92 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	テーブル、ソファの位置を替え、気分転換を図っている。		
93 (37) ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	出来るだけ使い慣れた物を持ち込んでいただくよう、家族と相談している。		
94 ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなく換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	湿度、温度計を利用し、室温や湿度に気を配りながら、定期的に換気している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送ることができるように工夫している。	利用者に合わせて、手すり、エレベーターを利用してもらっている。歩行困難な方には、歩行器、車椅子を利用していたき、自立した生活ができるよう工夫している。		
96 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	出来るだけ本人に寄り添うケアを行い、安心して生活できるように支援している。		
97 ○建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	玄関前の掃除、畑の草取りを利用者と共に行っている。		

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
V. サービスの成果に関する項目			
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	①ほぼ全ての利用者の ③利用者の1／3くらいの	②利用者の2／3くらいの ④ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	①毎日ある ③たまにある	②数日に1回程度ある ④ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1／3くらいが	②利用者の2／3くらいが ④ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1／3くらいが	②利用者の2／3くらいが ④ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1／3くらいが	②利用者の2／3くらいが ④ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1／3くらいが	②利用者の2／3くらいが ④ほとんどいない
104	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1／3くらいが	②利用者の2／3くらいが ④ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	①ほぼ全ての家族等と ③家族の1／3くらいと	②家族の2／3くらいと ④ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	①ほぼ毎日のように ③たまに	②数日に1回程度 ④ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ③あまり増えていない	②少しずつ増えている ④全くいない
108	職員は、活き活きと働いている。	①ほぼ全ての職員が ③職員の1／3くらいが	②職員の2／3くらいが ④ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1／3くらいが	②利用者の2／3くらいが ④ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	①ほぼ全ての家族等が ③家族等の1／3くらいが	②家族等の2／3くらいが ④ほとんどできていない

自己評価書

【ホームの概要】

事業所名	サンキ・ウエルビィ グループホーム周南
所在地	周南市遠石一丁目10-57
電話番号	0834-27-6785
開設年月日	平成 19 年 4 月 1 日

【実施ユニットの概要】（ 2 月 1 日現在）

ユニットの名称	2F			
ユニットの定員	9 名			
ユニットの 利用者数	9 名	男性 名	女性 名	
	要介護 1		要介護 4	
	要介護 2		要介護 5	
	要介護 3		要支援 2	
年齢構成	平均 歳	最低 歳	最高 歳	

【自己評価の実施体制】

実施方法	運営者、管理者、職員で話し合い取り組みました。
評価確定日	平成 22 年 2 月 8 日

【サービスの特徴】

近隣に遠石八幡宮や緑地公園があり、天気の良い日には参拝やドライブに出かけています。
明るく楽しく元気にをモットーに、利用者の方に笑顔で過して頂ける様、職員一同支援させていただいております。また、街の中心部に位置しており、御家族の面会も多く、利用者も安心して生活されています。
自然とのふれあいとして、敷地内の畑で野菜や花の栽培を行ったり、歌やリズム体操などの音楽療法もおこなっています。月に2度行われる習字教室を楽しみにされている方もあります。
地域のボランティアの方も気軽に立ち寄っていただき、話し相手や歌

自 己 評 価 票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取 組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営 1. 理念の共有			
1 (1)	○ <u>地域密着型サービスとしての理念</u> 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	○	毎日、朝夕の申し送りの際、職員全員で唱和している。
2 (2)	○ <u>理念の共有と日々の取り組み</u> 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	○	毎日、朝夕の申し送りの際、職員全員で唱和している。
3	○ <u>運営理念の明示</u> 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。		
4	○ <u>運営者や管理者の取り組み</u> 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。		
5	○ <u>家族や地域への理念の浸透</u> 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい			
6	○ <u>隣近所とのつきあい</u> 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りたりしてもらえるような日常的な付き合いができるよう努めている。		
7 (3)	○ <u>地域とのつきあい</u> 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	○	出来るだけ地域の行事に参加し、ふれあうと共に私達のグループホームを知って頂ける様にしていきたい。
8	○ <u>事業所の力を活かした地域貢献</u> 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。		ボランティアの受け入れを随時行い地域の方のふれあいの場となっている。 地域見守り隊に参加し、「子供100当番の家」としての登録を行い車にステッカーを貼っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。		
10 (5)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	○	参加者からの意見を大事にして、日々のケアに活かしていきたい。
11 (6)	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。		
12	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。		
13	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。		
4. 理念を実践するための体制			
14	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。		
15	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。		
16 (7)	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	○	面会時間を利用し、職員の顔写真と氏名も公表していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	○ 情報開示要求への対応 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。	家族等の希望により面会簿、支援経過記録を提示し、情報開示に応じている。		
18 (8)	○ 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	家族会、運営推進会議に参加していただき、意見をいただいている。相談、苦情については契約の際、説明を行っている。		
19	○ 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月、職員会議やリーダーミーティング、フロアミーティングを開き意見交換を行っている。		
20 (9)	○ 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者の状態や、グループホームの行事に合わせて、柔軟なシフトを組んでいる。	○	行事を行う際、事故のないように、ボランティアを含めた体制をとっていきたい。
21 (10)	○ 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	出来るだけ利用者が、不安にならないように異動は最小限にしている。普段から1階、2階一緒にの行事を行い、職員も同じように声かけを行っている。		
5. 人材の育成と支援				
22 (11)	○ 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	グループホーム内で研修を行ったり、地域の研修会へ参加を呼びかけている。 具体的な介助方法についてのデモンストレーションも随時行っている。		
23	○ 職員配置への取り組み 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。	20代から60代の職員で意見も異なるが、利用者のニーズに答えるようにしている。		
24 (12)	○ 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	グループホームの勉強会や、交流会等には出来るだけ参加してコミュニケーションを図っている。	○	お互いの良いところは吸収し、サービスを向上させていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	○ <u>職員のストレス軽減に向けた取り組み</u> 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	出来るだけ話し合いの場がもてるように努めている。又クリスマス会や新年会など、会食の場をつくっている。		
26	○ <u>向上心を持って働き続けるための取り組み</u> 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	職員に役割分担を決め、各自が責任をもって行えるようにしている。		
27	○ <u>職員の業務に対する適切な評価</u> 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。	それぞれの個人レベルに合わせながら、処遇面において対応している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
28	○ <u>初期に築く本人との信頼関係</u> 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	入居前にグループホームを見学してもらい、家族、本人より希望を聞くようにしている。		
29	○ <u>初期に築く家族との信頼関係</u> 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	入居の相談に来られた時、ホーム内を見て頂き、時間の許す限り相談に応じている。	○	家族の不安をゆっくりと聴けるような、体制作りをしていきたい。
30	○ <u>初期対応の見極めと支援</u> 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	早急な対応が必要な場合は、他の施設を紹介したり、出来る限り情報提供に応じるようにしている。		
31 (13)	○ <u>馴染みながらのサービス利用</u> 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	グループホームの環境に早く馴染んで頂ける様に、職員も気を配っており、家族等にも面会も多くして頂けるように説明している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
32 (14)	○ <u>本人と共に過ごし支えあう関係</u> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	出来る事は性別を問わず、掃除、片付けを一緒に行い、感謝の言葉を伝えるようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	○ <u>本人を共に支えあう家族との関係</u> 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	誕生会、行事等には、家族に声かけをして参加を呼びかけている。 不穏時には電話で連絡を取り、会話をしている。		
34	○ <u>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</u> これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	個々によって関係の深さが異なるが、電話、面会によってより良い関係が継続できるように努めている。	○	利用者が安心して過ごせるように、家族とのコミュニケーションを多くとっていきたい。
35	○ <u>馴染みの人や場との関係継続の支援</u> 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	支障のない限り、地域の行事に参加したり、思い出の場所に出かけたりしている。		
36	○ <u>利用者同士の関係の支援</u> 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	皆でレクリエーションを行う機会をつくり、利用者間で信頼関係作りをしている。	○	耳が遠く、コミュニケーションがとりにくい方の孤立が目立つため皆の輪の中に入れるよう職員がとりもっている。
37	○ <u>関係を断ち切らない取り組み</u> サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退去後も、家族がボランティアで誕生会などに参加して下さっている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
38 (15)	○ <u>思いや意向の把握</u> 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常の会話の中より本人の希望を察知し、援助内容に反映させるように努めている。	○	一人ひとりに関わる時間がもう少し多く取れるよう考えていきたい。
39	○ <u>これまでの暮らしの把握</u> 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	面会時に、今までの生活歴など少しでも引き出せるように、情報の把握に努めている。		
40	○ <u>暮らしの現状の把握</u> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	行事のない時は、それぞれの生活リズムを大切にし、ゆっくりと過ごしていただいている。	○	今後も個別ケアに取り組んでいきたいと考えている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
41 (16)	○ チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	管理者、看護師、介護職員、医師の意見等を確認し、介護計画を作成している。		
42 (17)	○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	定期的な見直しと共に、状態の変化など、随時対応している。		
43	○ 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別の支援経過記録を利用し、情報の共有に努めている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
44 (18)	○ 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	家族の希望に応じて、外出、外食、外泊など柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
45	○ 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	民生委員、地域住民の協力で、門松、輪飾りを作っていたが、利用者が喜ばれた。また、介護相談員が定期的に訪問されている。	○	民生委員、ボランティアなど、いつでも協力の得られる体制づくりをしていきたい。
46	○ 事業所の地域への開放 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している（認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等）。	家族はいつでも面会でき、ボランティアの受け入れ、施設見学など出来るだけ対応している。		
47	○ 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	入居申し込み時に、他の施設などの紹介を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48	○ <u>地域包括支援センターとの協働</u> 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	2ヶ月ごとに開かれる運営推進会議のメンバーになってもらい、情報交換を行っている。		
49 (19)	○ <u>かかりつけ医の受診支援</u> 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	今までどおり、かかりつけ医を継続できるよう支援し、主治医がいない場合には、提携医を紹介するよう支援している。	○	一人ひとりの利用前の受診の経過、現在の受診の希望を把握して、今までのかかりつけ医や希望する医療機関での受診支援が出来るよう支援していく。
50	○ <u>認知症の専門医等の受診支援</u> 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	出来る範囲内で受診時に付き添い日常の様子など伝え、主治医と連携を図っている。	○	まだまだ認知症専門の先生が少ないので、グループホームでの様子もきちんと伝えていかななくてはならないと考える。
51	○ <u>看護職との協働</u> 利用者をよく知る看護職員（母体施設の看護師等）あるいは地域の看護職（かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等）と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	病状により生活上の注意点を看護師が中心となり支援を行っている。必要時、市の保健師より指導を受けている。	○	体調の変化に気付いた場合は、すぐに看護師に相談し、対応していく。
52	○ <u>早期退院に向けた医療機関との協働</u> 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時の情報提供や入院中の情報交換など行っている。	○	医師への連絡を行い、症状・入院期間で退院へ向けての準備、注意事項を職員へ伝えるなどの連携をとっている。
53 (20)	○ <u>重度化や終末期に向けた方針の共有</u> 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	家族等の希望を聞きながら、不安のないように説明を行っている。	○	主治医に症状を聞き、家族を交えて話す機会を持っている。症状説明やカンファレンスを行い、団塊に応じた対応を行っている。
54	○ <u>重度化や終末期に向けたチームでの支援</u> 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	今後の方針として話し合いの機会を持っている。家族とは他の医療機関や介護保健施設などの情報提供なども行っている。	○	症状説明が家族へされたら、その情報をもとに職員への情報提供、介護ケアの統一の為、カンファレンスをおこなっている。
55	○ <u>住み替え時の協働によるダメージの防止</u> 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	出来るだけ本人の持ち物を活用していただくよう家族に説明している。転院などの場合には、面会などを行い精神面での安定に配慮してる。	○	入居希望時にリロケーションダメージについて十分な説明を行っていききたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
56 (21)	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。		
57	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。		
58	○“できる力”を大切にされた家事への支援 家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。		
59 (22)	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
60	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。		
61 (23)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。		
62	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。	○	誕生日等にはできるだけ本人の嗜好を考えていきたい。
63	○気持ちのよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
64 (24)	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しむように支援している。	一人ひとりゆっくり入っていただけるよう、個別入浴としている。		
65	○安眠休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。	本人が安心して就寝できるよう、室温調節や明かりの調節など本人と相談しながら対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
66 (25)	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	家事仕事やレクリエーションなど楽しみの場面を見つけるよう支援している。その都度感謝の言葉を伝えている。	○	出来ること、個別の役割を多く増やしていきたい。
67	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	利用者が好みのものを買えるよう、職員と共に買い物に出かけている。		
68 (26)	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天気の良い日には近くの境内まで散歩したり、ドライブなどに出かけている。	○	外出の機会を出来るだけ多くとりたい。
69	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	思い出の場所に、職員と共にドライブに出かけている。		
70	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人からの希望があれば随時、対応している。		
71	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	自室を利用して個別に話ができるよう配慮している。また、ソファなどを利用してロビー内で落ち着いた空間作りを心掛けている。		
72	○家族の付き添いへの支援 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。	できるだけゆっくり過ごしてもらえるように支援しているが、現在の所、宿泊希望者はいない。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
73	○家族が参加しやすい行事の実践 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。	夏祭りや誕生会など家族の参加を呼びかけている。	○	出来るだけ家族にも参加していただける行事を行っていきたい。
(4) 安心と安全を支える支援				
74 (27)	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	夜間は防犯上、施錠しているが、日中は常時開錠し自由に出入りが出来るかたちにしている。		
75 (28)	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	居室については、外からは施錠できない作りとなっている。利用者によっては、ご自身で居室内から施錠される場合がある。		
76	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	朝、夕の申し送り通じて利用者の様子を把握し、昼夜安全確保している。		
77	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	日中、はさみを使用してもらうこともあるが、夜間は職員が保管している。		
78 (29)	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	ヒヤリ・ハット検討会を開き、再発防止に努めている。	○	研修を継続し、再発防止に向けて意識改革としてヒヤリ・ハット検討会を今後も開いていく。
79 (30)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	消防署の研修に参加をして緊急対応ができるようにしている。		
80	○再発防止への取り組み 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。	ヒヤリ・ハット検討会を行い、全職員が報告書に目を通すようにしている。	○	自己責任において再発防止に取り組むたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいる項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
81 (31)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人の協力を得られるよう働きかけている。	地域の民生委員の方に協力をお願いしている。		
82	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	面会時などを利用して利用者様の現状を伝え、起こり得るリスクについて話し合いを持つようにしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
83	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	体調変化のある人は、看護師へ報告するようにしている。毎日バイタルチェックを行い、日頃の様子観察により早期対応に努めている。	○	看護師を中心に早期受診に努めていく。
84 (32)	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	支援経過記録に個別の服薬説明書を添付し、服薬内容の把握がしやすくなっている。状態変化などについても看護師から主治医、薬剤師への連絡も行えている。	○	服薬時に本人に手渡し、きちんと服用できているか最後まで確認する。
85	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	毎日、体操を行っている。午前午後に水分補給の時間を作り、入浴後にも水分を取っていただける様にしている。	○	繊維質の多い食材を食事やおやつメニューに取り入れたり、散歩、家事仕事等で身体を動かし、自然排便ができる様取り組んでいく。
86 (33)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	毎食後、状態に応じて、声かけ、見守り、一部介助で口腔ケアを行っている。	○	毎食後のハミガキ、入れ歯の管理、手入れを確実にできるように支援していく。必要なら歯科往診を依頼する。
87 (34)	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	1日の摂取カロリーを1500キロカロリーとして、個人の摂取量を毎食後記入している。		
88 (35)	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	職員会議で注意を促し、入り口には消毒液を置き、マスク、手洗い等に気をつけている。毎日床掃除、ドアノブを次亜塩素酸を使って行っている。換気は1日に2～3回行って、加湿器も使用している。	○	予防接種の徹底を図っている。新型インフルエンザの接種については医師との相談にて接種している。
89	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	まな板、ふきんなど消毒を毎日行っている。食品は使いきるような量を購入している。	○	冷蔵庫の整理日を決める等、残ってしまった食材が古くならないよう、無駄なく使用できる工夫をしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
90 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関入り口にはスロープがあり、階段には手すりが取り付けられている。季節の花などを置き、やわらかい雰囲気作りを心掛けている。		
91 (36) ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	季節の花や飾り付けを行い、四季を感じとって頂ける様配慮している。換気を行い臭いがこもらないように注意している。		
92 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	テーブル、ソファの位置を替え、気分転換を図っている。		
93 (37) ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	出来るだけ使い慣れた物を持ち込んでいただくよう、家族と相談している。		
94 ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	湿度、温度計を利用し、室温や湿度に気を配りながら、定期的に換気している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送ることができるように工夫している。	利用者に合わせて、手すり、エレベーターを利用してもらっている。歩行困難な方には、歩行器、車椅子を利用していたき、自立した生活ができるよう工夫している。		
96 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	出来るだけ本人に寄り添うケアを行い、安心して生活できるように支援している。		
97 ○建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	玄関前の掃除、畑の草取りを利用者と共に行っている。		

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
V. サービスの成果に関する項目			
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	①ほぼ全ての利用者の ③利用者の1／3くらいの	②利用者の2／3くらいの ④ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	①毎日ある ③たまにある	②数日に1回程度ある ④ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1／3くらいが	②利用者の2／3くらいが ④ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1／3くらいが	②利用者の2／3くらいが ④ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1／3くらいが	②利用者の2／3くらいが ④ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1／3くらいが	②利用者の2／3くらいが ④ほとんどいない
104	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1／3くらいが	②利用者の2／3くらいが ④ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	①ほぼ全ての家族等と ③家族の1／3くらいと	②家族の2／3くらいと ④ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	①ほぼ毎日のように ③たまに	②数日に1回程度 ④ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ③あまり増えていない	②少しずつ増えている ④全くいない
108	職員は、活き活きと働いている。	①ほぼ全ての職員が ③職員の1／3くらいが	②職員の2／3くらいが ④ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1／3くらいが	②利用者の2／3くらいが ④ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	①ほぼ全ての家族等が ③家族等の1／3くらいが	②家族等の2／3くらいが ④ほとんどできていない